

生物多様性

生物多様性に関する取り組みについて

日本光電では、気候や生物多様性を含む自然資本が、当社の事業活動にとって不可欠であり、同時にそれらに影響を与える可能性があることを認識しています。気候変動対策を含む地球環境の保全は、グローバル社会が直面する重要な社会課題であり、当社にとっても重要な経営課題の1つです。そのため、事業活動が与える悪影響の回避と最小化に努め、自然と共存する社会を目指しています。生物多様性に関する具体的な取り組みについて、サステナビリティ推進委員会で協議を進めています。

2026年3月に稼働を開始した鶴ヶ島生産センタ（埼玉県鶴ヶ島市）においては、当社の環境理念・環境方針に基づき、事業活動と環境保全の両立を重視した工場づくりを推進しました。また、環境に配慮した施設整備を重視する埼玉県の考えとも整合を図り、地域環境と調和した生産拠点の構築に取り組んでいます。太陽光パネルの設置による再生可能エネルギーの活用や、トイレへの雨水利用をはじめとした水資源の有効活用を進めるなど、資源循環に配慮した持続可能な事業運営を行っています。

また、2026年2月に、当社のアドバイザーである東京大学 先端科学技術研究センターの小林 光研究顧問に加え、福岡女子大学 国際文理学部環境科学科の豊貞 佳奈子教授とともに、鶴ヶ島生産センタ周辺の生態系調査を実施しました。鶴ヶ島生産センタは「鶴ヶ島グリーンパーク」に隣接しており、自然散策エリアとして親しまれている「太田ヶ谷の森」をはじめ、ビオトープや鳥類が集まる蓮池など、多様な生物が生息する自然環境に恵まれています。

日本光電は、こうした周辺環境の特性を理解したうえで、生産活動が地域の生態系に与える影響の把握や配慮を行い、地域と共生する工場運営を進めます。



鶴ヶ島生産センタ周辺の生態系調査の様子



鶴ヶ島生産センタ